

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100231		
法人名	社会医療法人 健友会		
事業所名	グループホーム星取		
所在地	長崎県長崎市星取2丁目2-43		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成27年11月7日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「星が取れるくらい夜空が美しい」と例えられるこの町は丘の上にある住宅地で、入居者様は地域自治会の会員として暮らしています。所帯は、入居者様9名・職員9名。1階は通所デイで、一緒に行事を行ったりにぎやかです。地域自治会班会に参加。夏まつりや敬老会・バザーなど、ご家族も一緒に参加して交流を楽しんでいます。日常生活では、入居者様ご自身のペースでゆったりと安心して過ごして頂けるよう支援しています。ホームにはアイドル犬がおり、餌やりの役目の方・抱いてかわいがりの方等、とてもにぎやかです。当ホームでは、ご家族・地域・ボランティアの皆様のご協力のもと、毎月外へ出かけています。長崎市の行事「おくんち」や「ランタン」・お買い物など好評です。リクエスト食では皆様のご希望の食事を作ったり、毎月の生け花教室では生花を愛で喜ばれています。医療では、週5日の内科往診・歯科往診も月2回、緊密な連携です。入居者様が笑顔一杯。スタッフ一同寄り添っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中に位置する事業所は、1階がデイサービス、2階がグループホームとなっている。開設7年目を迎え、利用者全員が個々に自治会に加入し地域としっかり結びついている。事業所主催の行事には、近隣幼稚園児や地域住民、ボランティア等が訪問し楽しい交流の場となっており、地域住民と共同で制作したハザードマップにはAED設置事業所として記載されていることから、地域で認知されていることがわかる。気取らない性格の管理者や介護に対する志が高い職員の関係も良好で、職員の意見を受けてすぐに改善に向けて取組む等、やりがいのある職場は離職率の低さに繋がっている。毎月1回、利用者全員で出掛ける外出には家族やボランティアも同行し、笑顔溢れる様子が一言一言付きの写真で便りとして家族に届けられている。看取り支援もあり、本人・家族にとって安心して暮らせる第二の我が家となっている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちは、利用者様に寄り添い「安全」「のんびり」「生き生き」その方らしい生き方を支援します。・キャッチフレーズ 一、利用者様の人格を尊重し、利用者様と職員が家族のように家庭でも役割を果たしながら、その人らしい普通の暮らしができるように支援します。二、住み慣れた土地で、町の住人として社会に参加しながら、穏やかな暮らしが送れるように支援します。三、このような暮らしをすることにより、利用者様の心の安定を図り、利用者様とご家族のよりよい関係を築いていきます。四、どのような境遇にあろうとも、安心して暮らせる社会の確立を目指し努力しています。標記し、確認し実践しています。	毎年1回全職員が参加する理念の振り返り学習会がある。また、毎月のケアカンファレンスでは職員が自発的に勉強会を企画して、全職員出席で理念の理解浸透と共有を図っている。職員は、家族や地域に働きかけ、双方向で沢山の触れ合いの機会を持ち、利用者も地域の一員として穏やかな生活が笑顔で送れるように理念に沿って支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶をきちんと、明るく行き、地域の行事準備の際は参加しお手伝い。自治会班会に参加。日常的に遊びに来て頂いています。おたよりを近隣14件に毎月配布。気候の良い時はアイドル犬の散歩を入居者様と行き、地域の皆様と交流しています。	利用者全員が自治会に加入し、事業所も一つの班として自治会で活動している。事業所には広報誌が届き、事業所からは便りを近隣に配布し事業所の様子を知らせている。保育園児や地域ボランティアの訪問も頻回である。今年度、近隣住民の理解を得て非常用外付けベルを設置している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣には、毎月「おたより」を配布し、「相談など気軽にお越し下さい。」と案内しています。運営推進会議では、皆様のご様子を報告・学習会なども行い発信しています。地域からの相談があった時には、包括支援センター・他施設などを紹介したりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の取り組みを報告。防災については、実際に参加して頂き貴重なご意見を頂いています。火災報知器と火災通報の連携に合わせ、地域へ向けての外付けのベルを付けたのもご意見の賜物です。火災報知器通報と共に地域や職員に電話連絡が直接入るようになりました。	年に6回規程のメンバーで開催している。災害について近隣住民の意見も多く、階段デッキが広くなったり、災害時の外付けベルが設置されたり、会議での意見提案を運営に反映している。議事録は判断に至るまでの流れを記録しており、より詳細な情報を得る事ができる。欠席家族にも議事録は送付され情報の共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「ホーム便り」の送付・運営推進会議での情報交換・一人暮らしの方の情報、相談など連携しています。地域包括・市担当者との訪問・地域認知サポート制度の協力を行っています。	運営推進会議に、大浦包括支援センターやすこやか支援課からの出席がある。市からの依頼で地域サポート制度の実習生を引き入れたり、その他介護相談員も年1回受け入れ、行政との協働体制を築いている。管理者は利用者の代行手続きで担当課を訪れている。	

グループホーム 星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」ホームの方針はスタッフ一人一人に定着しており、日常生活の中で、利用者様が笑って暮らして頂ける事を考えケアを行っています。施錠はしていません。転倒防止でご家族の了承の元夜間柵を使用している入居者様については市へ定期的に報告を行っています。	職員は外部研修を受講後、毎月のケアカンファレンスで研修報告し、共有をしております。身体拘束の弊害を全職員が正しく理解している。家族から転倒防止のため夜間帯のベッド柵の要望があり、3ヶ月間検討を重ね、結果的に使用することとした。行政には定期的に報告を行い、定期的に検討会議を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、グループホーム協議会・系列学習会・研修会と学ぶ機会が多くあり、学習しフィードバックしています。気づきなど出せるアイテムとして「心をひとつに」接遇箱を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の学習会に参加し、フィードバックしています。現在、9名中8名の方はご家族がおられ、1名の方は生活福祉課と連携し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様が入所・退所の際は、それぞれの方に不安がないよう契約の説明・対応を行いました。また、随時疑問点はお受けし、ご説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族・地域の皆様のご意見や要望は、日常生活の中・面会時・運営推進会議・アンケートなど、あらゆる機会に伺い、運営に反映に生かしています。(行事・防災・生活面など)	家族には日頃から訪問時や電話にて連絡している。毎月送る便りには写真で様子がわかるよう工夫し、日中の様子を個別に記しており家族に好評である。また毎月行う外出行事への参加案内は家族の予定を考慮し前月に知らせている。更にアンケートを実施し、家族の意向を尋ね反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、意見・提案を聞き、カンファレンスで反映させるようにしています。よい意見や提案はどんどん取り入れています。事業所の運営他報告資料は、職員全員が閲覧できるようにしています。	年1回、管理者等と個別面談を行い、個人目標を振り返っている。職員会議等では、記録様式の提案や夜勤者の負担軽減のための方策など全職員で検討し取り組んでいる。資格取得や研修受講は全職員に促し、内外の研修で質の向上に繋がるよう努めている。	

グループホーム 星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	s給与については、介護職自体が低い水準にあり、頑張りに見合っていないと考えます。今後も国の施策に訴えると共に、やりがいのある職場になるよう、適切な残業などの手当・福利厚生・公休・年休は希望を最大限に受け入れていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は随時希望が出せるようにし、参加を保障しています。法人の新人・中堅・リーダーなど各研修に参加。実践者研修に1名参加。ケアカンファレンス時に研修のフィードバック実施。中堅職員が新人担当し教育・相談相手です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム連絡協議会会議に参加し、担当者を中心に研修会や懇親会を企画・交流しています。法人内でも介護部会を通して事例報告・研修に参加・交流しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込みの時は、見学をして頂き内容を説明し、不安な事やご要望について把握しています。また、家庭訪問や関わりのあるケアマネ・介護担当者との情報交換を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の見学は多く、現状をお尋ねする中でご不安や疑問などにお答えしています。申請された後は1月頃におたより・アンケートを送付し、緊急性はないか、お困り事はないか、現状などお尋ねし信頼関係を持つようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前まで受けていたサービス関係者からの情報収集やご本人、ご家族との面接、センター方式作成などから必要なサービスを見極め随時話し合いで見直しをし提供しています。		

グループホーム 星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事(洗濯物干し・畳み・食事作り)など、出来る方にはお手伝いをして頂いています。生活の色々な場面において利用者様に意見を聞きながら、話しを進めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「日常のごようす」のお便りで、ご本人の状況をお知らせし、面会時やプランの説明時、ご意見を聞きながら、ケアを検討しています。行事の外出・外部の病院受診などご家族様の協力は多事です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へは毎回行事のお誘いをしてご参加を頂いています。知人・友人の方の面会時は、写真を記念に撮るようにして、ご希望の方には送らせて頂いています。後日ご家族には、面会があった事をお知らせしています。	毎月の行事はドライブや花見、食事などを利用者と一緒に楽しむ機会となっている。近所の人や友人の訪問があり、記念写真を撮って、送っている。また、利用者との昔の思い出話を聞き、支援に役立てるなど、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性利用者様の中には利用者様同士、仲の良い関係を築いておられます。談話やレク時、気がけて孤立しないように声をかけ、言葉で表せない方は、間を取り持っています。トラブルになりそうな時は、悪化しないようにアプローチしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ショートステイを利用できるようになっており、25年度は、退所された利用者様が1週間利用されました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言動・ご様子から気持ちを読み取るようにし、ご家族へもお聞きしながらご本人の意向を把握するようにしています。食事については、毎月、リクエスト食の日を作り、利用者様の食事の希望を聞いています。	理念を振り返り、職員が利用者の思いや意向に寄り添うために、ゆったり過ごせる場面づくりを行っている。難聴である場合はゆっくり耳で話し、意向の表出が困難な利用者には選択肢を準備して反応を注視している。把握できた意向や記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居初めにご家族・ご本人へ聞き取りを行いセンター方式で把握。同時にそれまで利用していたサービスの関係者からの情報収集し入居後もその都度、会話の中からや、ご家族面会・プランの相談時、情報を頂くようにしています。		

グループホーム 星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月1回、利用者様全員のケアカンファレンスを職員全員参加で行い、一人一人の状況を共有し、アセスメントの見直しに反映しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方について、毎月1回全職員でケアカンファを実施し3カ月に1度はケアプランの見直しを行いご本人を交えご家族と話しご意見を伺っています。また、外出ヘルパーなど他職種の方のご意見も聞いています。担当者会議では課題の検討を行っています。	ケアマネージャーが中心となり担当職員の気付きや家族の意見要望をもとに毎月のケアカンファレンスで全職員で検討し介護計画を作成している。3ヶ月毎に見直しを行い、食事形態の変化は随時見直し、検討しており、PDCAが確認できる。	介護計画を更に質の高いものにする為、利用者の発語や表情をプランに繋げる工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやカルテへの記録により情報を共有。大事な事は青字で記載することにより見落としを防止。又、報連相ノートも活用しています。計画の見直し時には、それらの記載からケアの変更につながっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨時受診はご家族に連絡の上、臨機応変に受診体制をとる。・面会の方とも一緒にお食事を召し上げて頂くなど、その場に応じて対応しています。ご家族・ご本人に了承を得て、代理で必要物品の購入をする事もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様全員が個別に自治会へ加入しており、自治会の催しなどの行事に参加。ホームでの行事には自治会や地域の方にも参加・ご協力頂いています。パン屋さんには週1回ホーム駐車場に来て頂き利用者様には買い物をして頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は、大浦診療所主治医が週5回・野島歯科は月2回定期往診。ご家族へは医師・ホームから報告・電話等で情報提供を行っています。耳鼻科・皮膚科等は外部病院にご家族付添いで、緊急時はスタッフがご家族の了承を得て受診支援しています。	利用者家族の希望優先であるが、契約時、法人医療機関の週4回の往診や月2回の歯科往診があることを説明している。同意を得て変更する家族もある。専門科は家族と職員が同行して受診結果も共有している。緊急時は、母体法人医療機関との連携にて適切な医療体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤にて、介護士は普段からカルテに状況を記載し、薬や症状への対応の仕方を都度看護師に相談しながら介護にあたっています。		

グループホーム 星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人である事から入院の多くは事業所関連の病院であり、必要時は情報をもらう事ができます。退院前には、ご家族・医師・看護師・ホームの職責者などのカンファレンスがあり、方針を検討し決定する事ができます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、「看取り介護」についての説明を行います。早い段階から、医師より重度化した時の延命治療の考え方について意向を伺っています。医療・介護の選択はご家族・ご本人に委ね、終末期介護を希望された時は、医療連携体制を執り（必要に応じて訪問看護を依頼）、尊厳あるターミナルケアを目指しています。26年度は2名看取りました。ご家族の見守り中の眠りでした。	利用開始時、終末期ケアについての説明を行い、状況変化に合わせて医師を交え話し合い、レベルが低下した時点で同意書を得ている。母体法人医療機関と事業所職員が連携し、今回は亡くなる3日前まで普段通りに行事に参加する支援を行い、家族から感謝の意が伝えられている。看取り後、法人内にて事例発表し、更なる質の高い介護を目指し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを装備し、確認をしています。AEDは備え付けており、仮訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	自治会・ご近所から4名・職員2名の6名が火災時の協力員として登録し、訓練時は地域・自治会からも参加があります。星取自治会では災害マップを制作しています。	年2回、昼夜想定消防署立会い、入居者、家族、地域住民参加で火災訓練を実施している。また毎月入居者と一緒に初期消火、通報、消火器訓練を行っている。非常時通報登録先に地域住民6名の登録があり外付け非常ベルを設置など防災意識が高い。ただし、備蓄、非常持ち出し品の整備はこれからである。	水や食料品以外の電気が使用できない場合の保存食や生活必需品の検討が望まれる。また、個人情報ファイルを緊急持ち出ファイルとして整備することにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声をかけるときに強制や上から目線の言葉使用をしないように気をつけています。排便状況を伝える時は、コート・ハルンの言葉に言い換える等の工夫をしています。しかし、急ぎやとっさの場合まだまだスピーチロックが十分ではありません。	排泄に関する言葉はドイツ語に置き換え、申し送り時はアルファベットで表現するなど、他の利用者が気付かないよう配慮している。トイレへの誘導は本人の耳元で小さな声で声掛けしており、失敗した際には車椅子の利用者の膝にバスタオルをかけるなど工夫している。写真掲載は書面にて家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身から希望を言い出せない方には、いくつかの選択肢から選んで頂くようにしています。		

グループホーム 星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見る方、居室で過ごされる方、テーブル自席で過ごされる方等、各自落ち着ける場所で過ごして頂いています。何かをする時は声かけはしますが、強制はしないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、起床時に洗面、整容を行い、洗面不可の方はおしぼりにて顔を拭いて頂きます。散髪や衣類にはその方の習慣や好みがあって、それを大事にするようにしています。外出やイベント時は、女性入居者様にお化粧を支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエスト食では、入居者様に希望をとり作っています。食事の配膳や食器洗いを手伝って頂いたり、時には皮むき・味付け等調理の手伝いもお願いしています。	食事は朝食以外は配食を利用している。月1回、リクエスト食として利用者の希望を聞きながら、職員が手作りして提供する機会がある。キザミやミキサー、トロミなど個々に対応している。外食には回数多く出掛けるなど利用者が食事を楽しむ支援に努めている。ただし、日々の食事が利用者の楽しみとなる工夫が必要である。	利用者の生活で3食の食事は楽しみであり、季節の食材や産地、味付けなどの話題は楽しいひと時でもある。日々の食事について、再度の検討を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食のうち2食はタクシヨクによる食事で、食事の内容が偏らないように提供しています。毎食食事量をチェック表に記入しキザミやトロミ・ミキサー食とその方に必要な形態で提供・支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台へ案内し口腔ケアを実施。個々に合わせ、出来ない部分を介助。中には、お茶(カテキンでの殺菌作用)でうがいを頂く方もおられます。每晚義歯を洗浄剤に浸け、週1回は歯磨きセットをハイター消毒。また、2週毎に歯科往診にて定期的にチェックを頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレの声かけと誘導を実施。排泄の意思を伝えられない方は、便、尿意のサインを察知するようにしています。	職員は、利用者ごとの排泄パターンを把握し、時間を見て誘導している。意思表示が困難な利用者には表情などで排泄のタイミングを察知している。退院時におむつだった利用者がリハビリパンツに改善した例がある。現在、布パンツを使用している利用者には継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分摂って頂くよう支援。腹部・肛門部のマッサージ・排便を行い便秘対策を行っています。食事は、皆様好き嫌いなく、野菜繊維類は摂られています。その上で、便秘薬を使用しています。		

グループホーム 星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日入浴で、入浴前に声かけをし、了承を得るようにしています。時間を尋ねる方にはおおよその時間を返答します。時には、便失禁の保清や意思の確認が取れない方もおられ、一部、職員側の都合である場合もあります。	一日置きに入浴できるよう準備している。拒否の場合は声掛けを工夫し無理強いせずに日を変える等対応している。職員は本人の好みの温度を把握しており、歌を歌ったり、会話している。希望に沿って入浴剤やゆず湯、しょうぶ湯、好みのシャンプーを使い、入浴が楽しくなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の入眠時間は経過一覧表・カルテに記載します。情報は申し送り報告。入居者様の状況を把握しながら、不眠の方や日中倦怠感や傾眠が現れている方は、都度居室のベッドで休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	不明な点は主治医・看護師・薬剤師などに相談しながら、薬の内容を把握。処方の変更時は、報連相ノートやカルテに記載し全職員で認識するようにしています。服薬後の症状を観察し、状況をカルテに記載。問題がある時は主治医に報告し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物たたみ・新聞折り・雑巾作り等、手伝って頂き職員はお礼を必ず言っています。入居者様は役に立つ喜びを感じておられる方もいます。毎月のカレンダー作りではご家族へ渡すのを楽しみにされている方もいます。レクリエーションでは、風船バレーや歌・カラオケ。五目並べのお好きな方は、他のご家族様がお相手して下さり楽しまれています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、季節・娯楽を楽しむ外出を企画(利用者様・ご家族様のご意見を聞きながら)しています。ご家族様・ボランティア・地域の方のご参加も多く、入居者様全員が参加しています。	事業所で飼っている犬の散歩に職員と一緒に出掛けたり、日用品の買い物では利用者に声を掛け外出する機会を工夫している。毎月花見やイベント、祭りなどの見物に全員で出掛けており、家族も一緒の機会もある。パンの移動販売は敷地内で駐車するため、パンを購入することは利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「お金」の理解ができ、ご希望される方は、ご自身で所持され、外出先やイベント時、職員が見守る中で、買い物をされています。		

グループホーム 星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時は、相手に確認後電話でのやりとりをして頂いています。年賀はがきは、5名の方のご家族へ出される支援を行いました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間、食堂、浴室には窓があり、カーテンによって遮光の調節ができます。温度は窓の開閉やエアコン・床暖房で調節。季節ごとの飾り付けや生花。また、窓からは畑や木々、畑で働く人などが見れ、季節を感じる事が出来ます。	2階であるため日当たり良好で、日差しはカーテンで調整している。温度計湿時計で適温を保ち、利用者に合わせた衣類調節も行っている。活け花教室での花やりビングから眺める風景からは季節感が感じられ、廊下には毎月の外出の楽しい写真を飾っている。朝、職員が清掃や換気し、清潔で快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にテーブル席だけではなく、テレビ周辺に種類の違うソファを置いているので、座りたい席を選ぶことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのある家具や小物などをホームの居室でも使って頂き、自宅で過ごされている雰囲気味わって頂いていまい。箸はご自分の物を使っておられます。短期記憶障害の方には、スタッフ・入居者様の写真を壁に貼り、不安がないようにしています。	居室は個性があり、仏壇やテレビ、筆筒などを配して従来の生活が延長するよう配慮している。特にベッドの位置は本人の移動がスムーズになるよう工夫している。夜間帯は洗面ボールに水を張り、湿度の保持と火災時にタオルを湿して口に当てられるよう備えている。毎朝、職員が清掃、換気し居心地よく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩ける方は、安全に歩行できるようにホーム内の各所に手すりを設置。トイレがわかりやすいように「便所」の表示をしています。ご自身のペースでの生活を望まれている方に対し、1日の流れの時間を壁に貼ることで生活のリズムを掴んで頂いています。		